



サステナビリティ日本フォーラム

企業の皆さまへ



サステナビリティ日本フォーラム



大変化が連続する時代を 企業の皆さまと共にサバイブするプラットフォーム

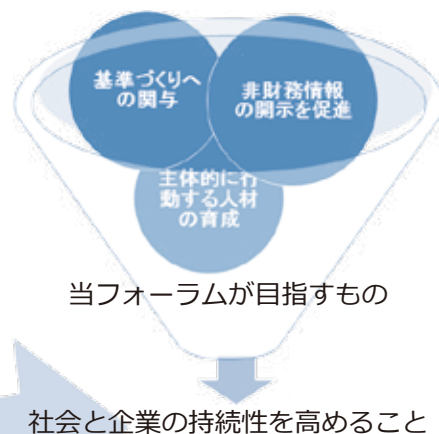
About

日本企業に「環境経営」が定着し、1990年代半ばから各社で環境部が設立されはじめました。サステナビリティ日本フォーラムは、CSRのトップランナーとして持続可能な社会を構築するため、社会を構成する企業や組織に自らの環境取組について、パフォーマンスに関する測定を行い、方針や目標と共に開示および説明責任を果たすことの重要性を啓発してまいりました。

各社が発行する環境報告書にどのような要素を含めるべきかについての参考として、環境省の環境報告ガイドラインやISO26000、GRIなどが参照されています。とりわけ国際的なガイドラインとなっているGRIの和訳と普及に努めてきたのが当フォーラムでした。

近年、CSR報告書やサステナビリティ報告書も合わせると、環境取組について開示する企業は、2,400社前後と見られています。情報の読み手も従業員や顧客、取引先、投資家、NGOなど多岐にわたります。

大変化が連続する、チャレンジングな時代を幅広い視点をもって皆さまとともに歩んでまいりたいと考えています。



春から秋にかけて開催するシリーズ勉強会は延べ1,800名以上の参加者

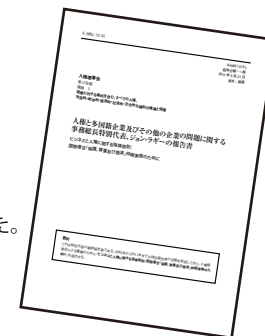
GRIガイドライン第2版、第3版を和訳。暫定版を含む第3版の配布数は3,190冊

2002年11月18日
国連大学 ウ・タントホール
で設立シンポジウムを開催



GRI ガイドラインは「サステナビリティ」という抽象的な概念を具体的な指標として可視化したもので、持続可能な経営を目指す企業をはじめ、さまざまな組織の活動を後押ししています。2002年にGRIと覚書を交わし、以来、翻訳や頒布、イベントの主催など、GRIガイドラインの理解と普及に努めています。これまでに改訂を重ね、現在、第4版まで発行されています。

近年、広く認知されるようになった企業にまつわる人権課題。2009年には見向きもされなかった課題でした。「ラギーフレームワーク」を読む会として企業2社有識者3名で開催したラウンドテーブル。その後急速に注目される課題になりました。



CSRのトップランナーであり続けること それは 半歩先を見据えて社会を動かす仕掛け役であり続けること



深刻な環境汚染を抱える中国でNGOの代表をしている馬軍氏を招聘し開催したシンポジウム（2009年）。タイム誌（アメリカ）の2006年度「世界で最も影響力がある100人」にも選ばれ、日本では2012年頃からメディアが広く紹介するようになりました。

2015年には、非財務情報の義務化を進めるEUの取組みを紹介するシンポジウムを開催するなど、活動は多岐にわたっています。

Join US!

2016年現在、28社の企業と9社（団体）の監査法人・労働組合、60以上の個人会員（多くは有識者）にご参加いただいています。ぜひ多くの皆さまにご参加いただきたく考えております。

<http://www.sustainability-fj.org/>